

東北福祉大学 通信教育部 福祉心理学科 学びの振り返りアンケート結果

- ・2018年9月通信教育部 福祉心理学科卒業生 16名中 11名回答（回収率 68.8%）。
- ・3月卒業者分につき、多くの項目で 80%以上の方が、当初の想定で概ね理解していると判断される「4」「3」「0」の回答であり、基礎的な知識・考え方は概ね理解していただいていると考えられる結果となりました。
- ・質問項目と回答結果は下記のとおりです（p.1～9 専門的知識・考え方 p.10～12 学士力）。
 ※専門的知識・考え方について、3月卒業生の際より変更し、キーワードと知識内容・考え方を分け、知識内容・考え方についてあてはまっているかどうかで回答をしていただきました。
 （キーワードは、振り返りの手がかりの扱い）

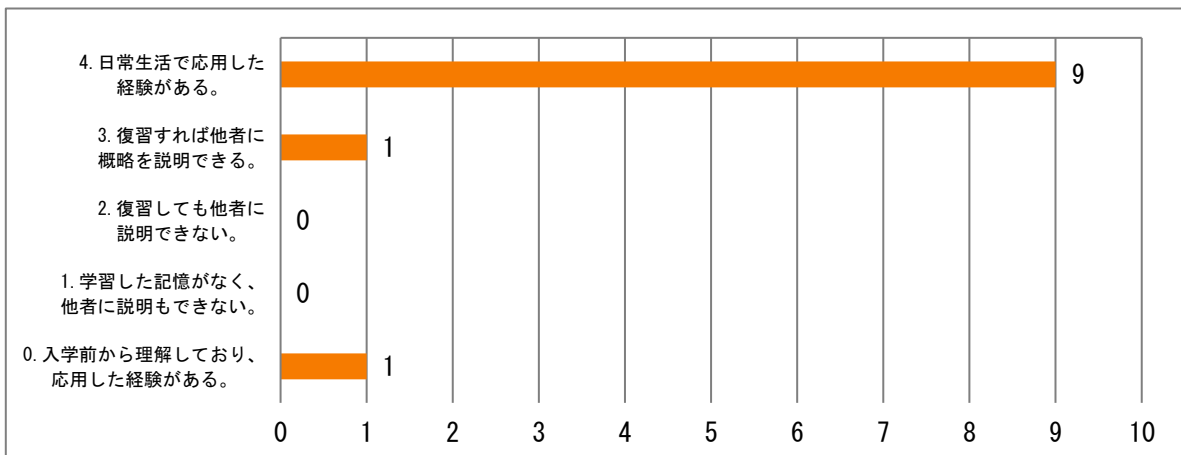
【質問】福祉心理学科で学んだ内容の一部について、振り返りをしながら、現在のあなたがその知識をどれくらい身に付けているかを教えてください（主観的な判断で結構です）。
一番あてはまると思う番号を1つ選び○を付けてください。

4	3	2	1	0
在学中に学習し、日常生活で自身や他人の行動や心の動きを把握する際にあてはめて考えたり、応用したりした経験がある。	在学中に学習し、復習（*）すれば他者に概略を説明できる。	在学中に学習したが、復習（*）しても他者に説明できない。	在学中に学習した記憶がなく、他者に説明もできない。	通信教育部入学前から理解しており、日常生活で自身や他人の行動や心の動きを把握する際にあてはめて考えたり、応用したりした経験がある。

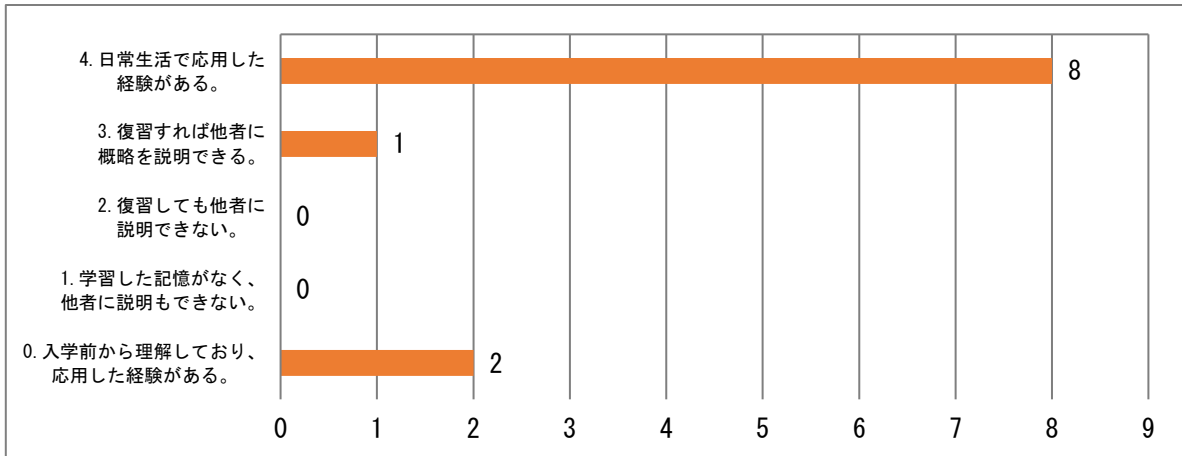
- ここでいう「在学中の学習」とは、通信教育部のスクーリングや教科書、レポート学習、その過程で自身で調べたりした学習などを含めていただいております。
- ここでいう「復習」とは、教科書や関連するホームページを読み返したりすることなどを指すことにします。
 復習により、または復習しなくても、内容を思い出し他者に説明できると感じられる状態、ならば「3」に、内容を何となくは思い出すが、自身でわかっていないとか、他者に説明できないと感じられる状態ならば「2」に○をしてください。
- 「4」と「3」の両方に当てはまる場合は、実際に知識を活用したことがあるレベルの「4」に○をしてください。

1) 人間の能力の不完全性・限界などについて

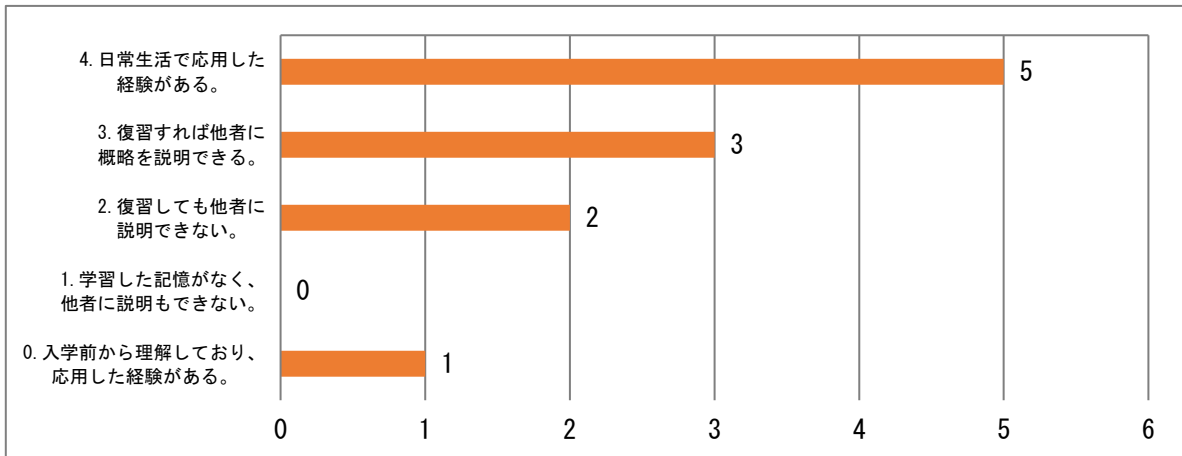
- ① 「自分の意思で行っていると思っている行動や思考が、無意識から影響を受けている可能性がある」こと ◆キーワード：無意識



② 「人間は外の世界を正確に認知しているわけではない」「色眼鏡で見ている可能性がある」こと
◆キーワード：錯視、スキーマ

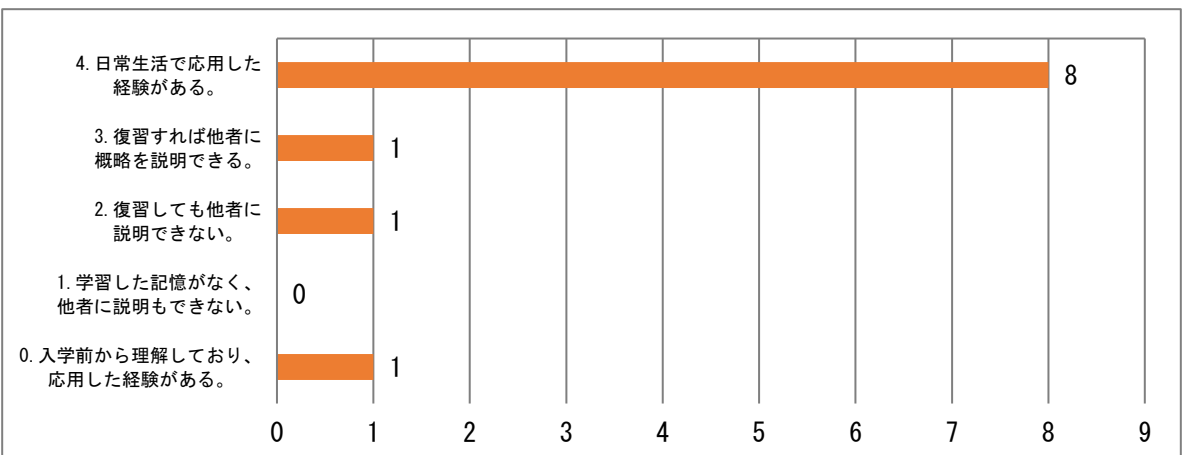


③ 「権威者の指示があれば常識人が理解しがたい残虐なことをする可能性がある」こと
◆キーワード：ミルグラムの実験



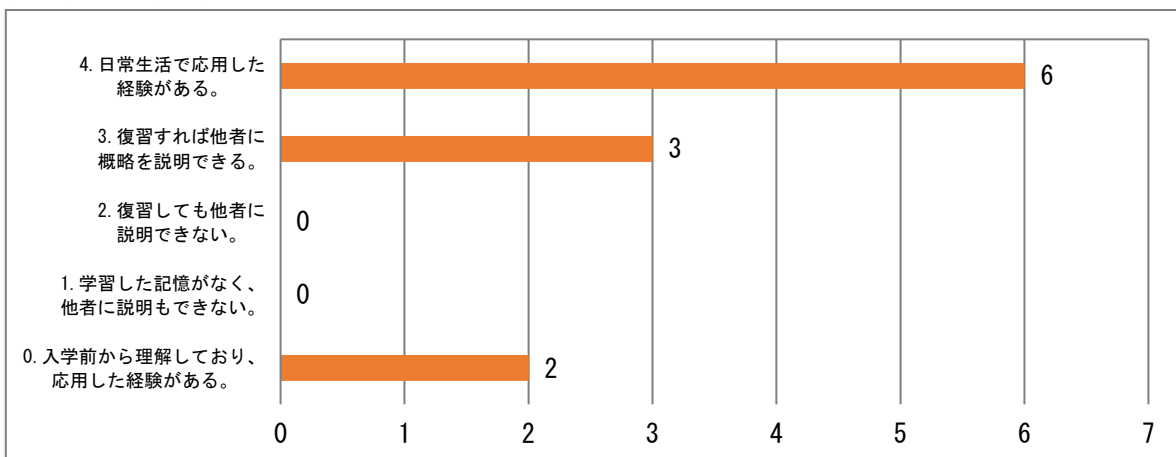
2) 自己理解・他者理解を行う際の視点について

① 私たちは不安や緊張を解消し現実に適応するが、防衛機制の働きで適応上の問題が起きる場合もあること
◆キーワード：抑圧、反動形成、投射

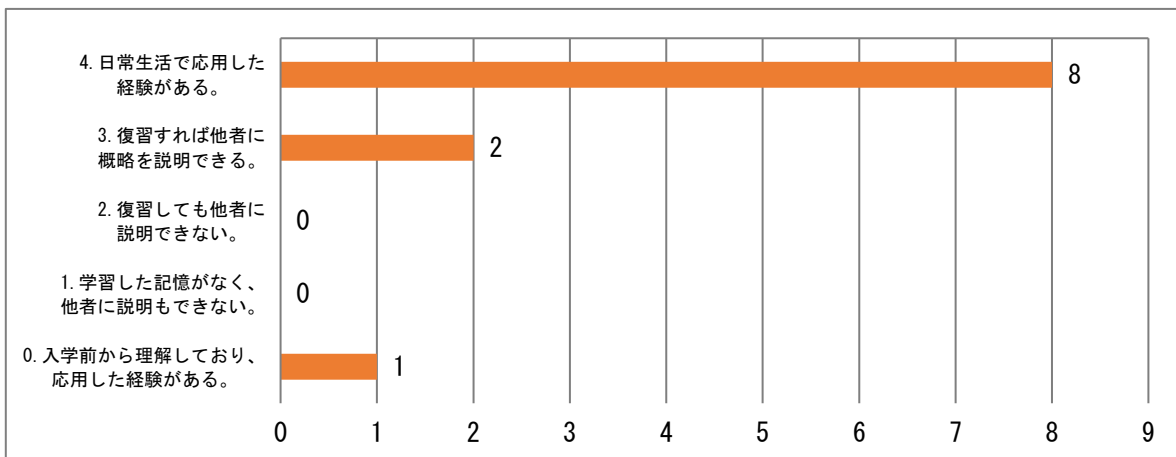


② 人間の行動の原因の1つは、さまざまな欲求を満たすためであること
欲求、承認欲求、マズロー

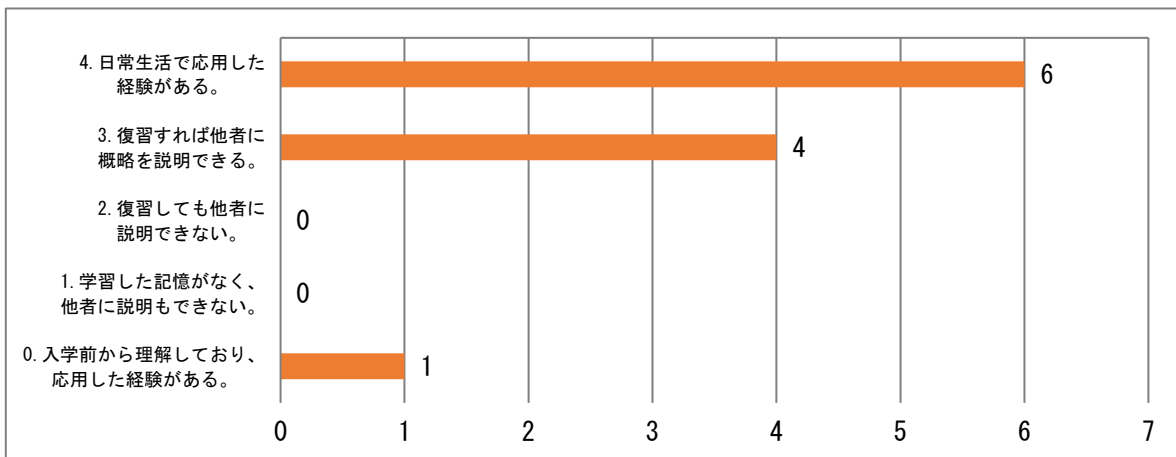
◆キーワード：第一次



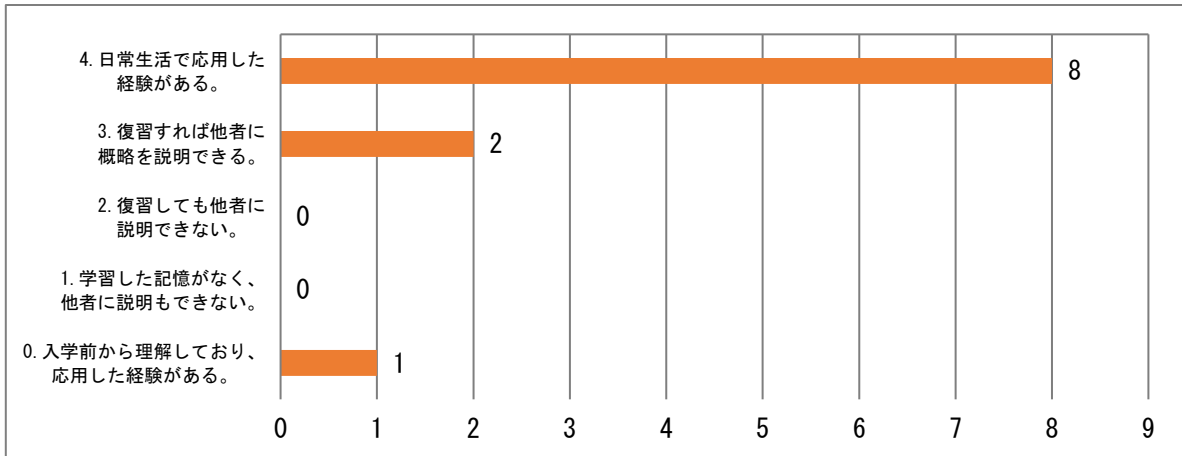
③ 「出来事の原因をどこに求めるかで感情や価値判断が影響される」「自責の念が強すぎると抑うつ状態になる可能性がある」こと
◆キーワード：原因帰属



④ 私たちの認知や行動は、他者の存在や周囲の環境から大きな影響を受けており、その影響を私たちが必ずしも意識しているわけではないこと
◆キーワード：社会的促進・手抜き、アッシュの同調実験

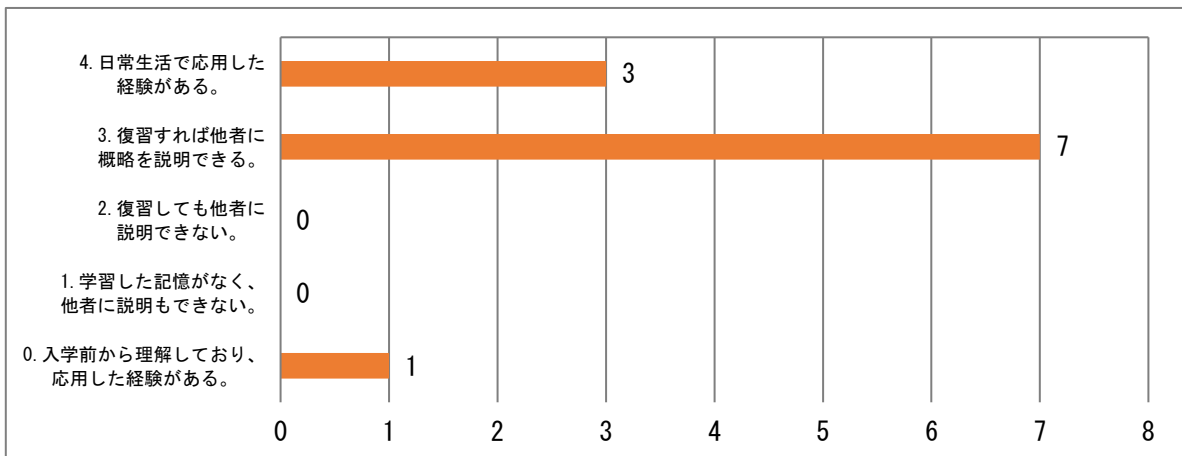


⑤ 自分ではどうしようもない失敗経験が続くことで、無力感に陥り、やる気を失ったり、自暴自棄状態の人がいること ◆キーワード：学習性無力感

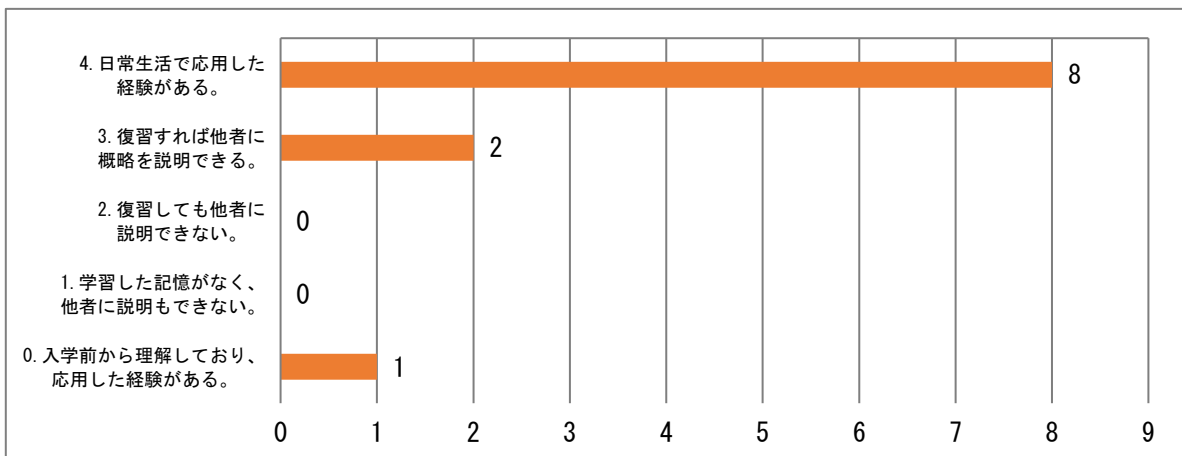


3) 集団理解・社会理解を行う際の視点について

① 人間の行動は個人要因と環境要因の両方の影響によりで決まるのであり、「何かが起きた時に個人のみ
の要因にしてしまいがちな思考は誤りの可能性がある」こと ◆キーワード：レヴィンの法則、基本的帰属の錯誤

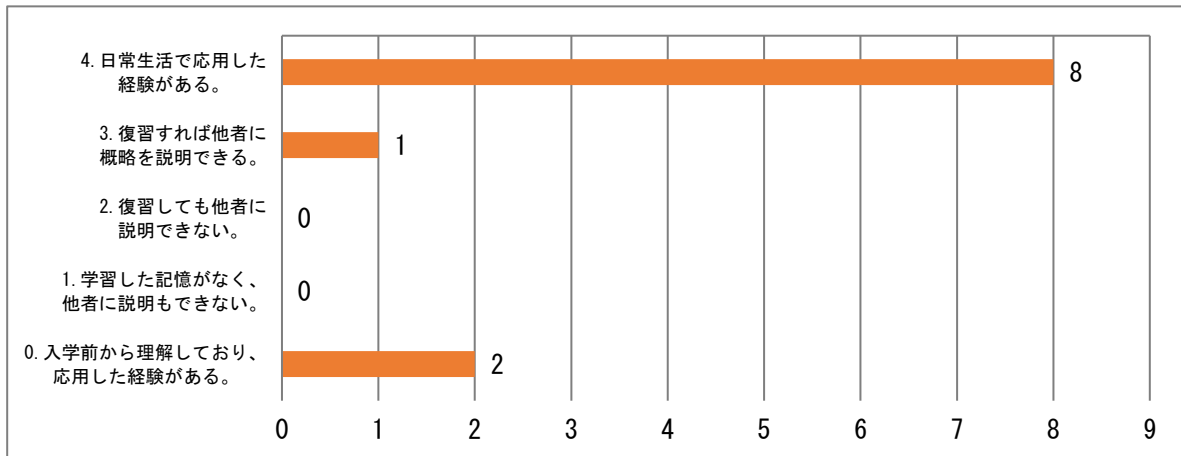


② グループによる意思決定は、結束を優先して反対を唱えにくくなるなどの影響で最適な結論が出ない
場合があること ◆キーワード：集団凝集性、集団極性化



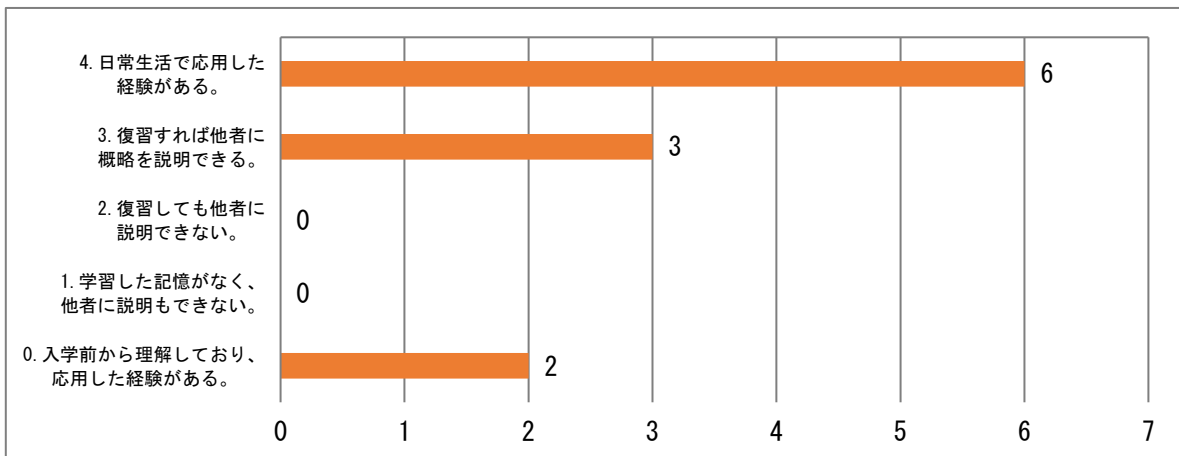
4) 発達と教育に関する知識・視点について

- ① 各発達段階には克服すべき危機、達成すべき発達課題があり、それを乗り越えないと以降の発達に影響を及ぼすことがあること ◆キーワード：エリクソン、ハヴィガースト



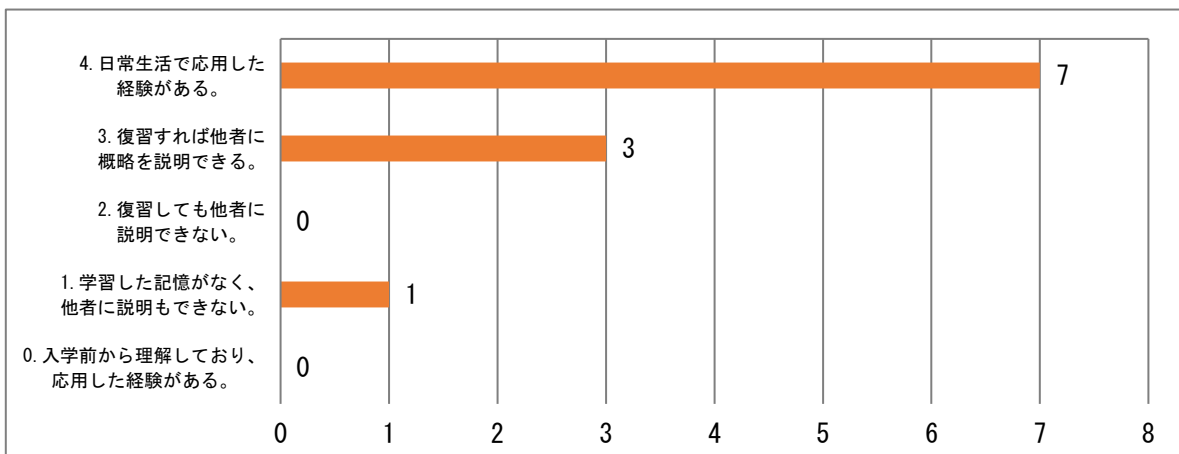
- ② 安全基地の役割を果たす発達初期の養育者との関係・愛着形成は将来の発達に重要な役割があること

◆キーワード：愛着、ハーロウのサル、針金・布製母親の実験、ストレンジシチュエーション法

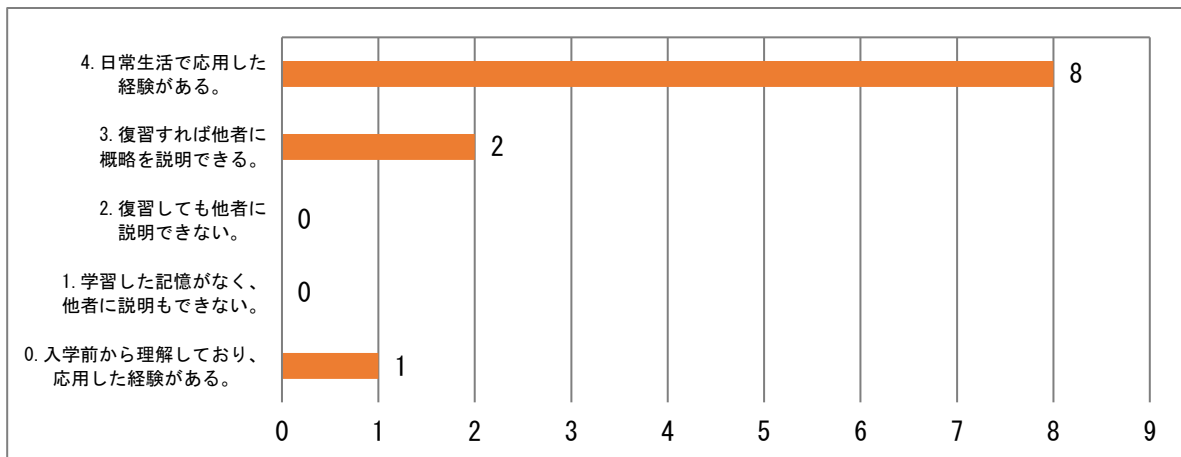


- ③ 発達を先取りした教育の効果をとく考え方では、子どもが独力で解決できるレベルより少しだけ難しいことを大人と共同作業することで、子どものできることを広げられると考えること

◆キーワード：発達の最近接領域論、ヴィゴツキー

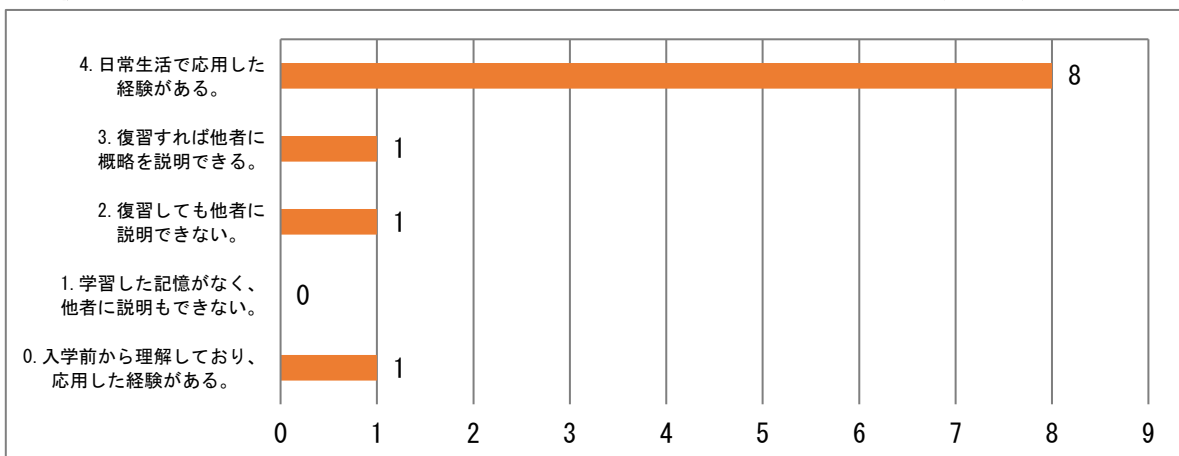


④ 生涯発達心理学の知見から、「人は一生涯発達する」こと、「高齢期には衰えるばかりではなく結晶性知能など維持・伸長するものもある」こと ◆キーワード：流動性知能と結晶性知能

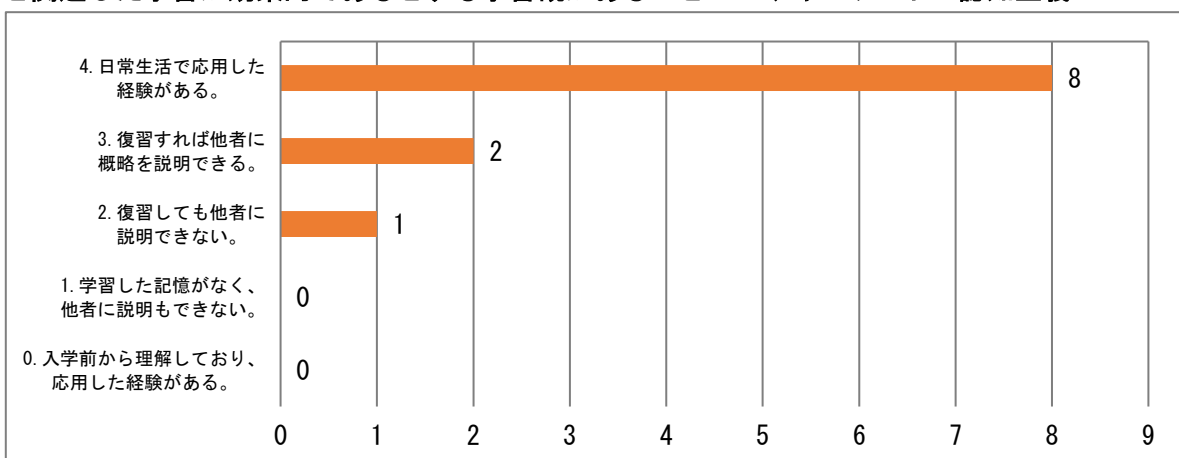


5) 学習に関する知識・視点について

① ある行動が起きた時に賞罰を刺激として与えることで、よい行動の形成も悪い行動の形成も(及びその習慣化も)条件づけによる学習で形成できること ◆キーワード：行動主義、S-R 理論

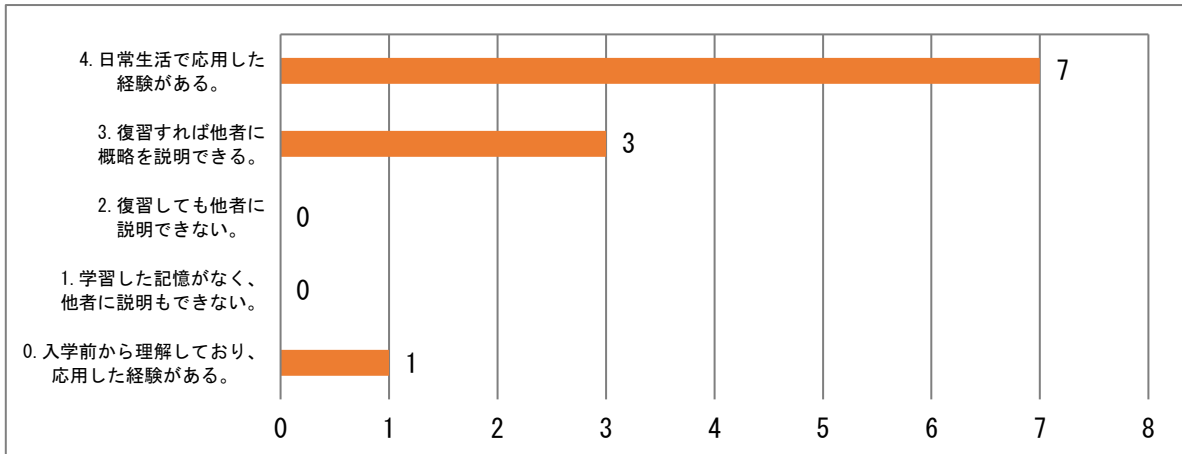


② 賞罰による強化を重視するのではなく、有意義な学習、相互に関連づいた知識や学習者のスキーマと関連した学習が効果的であるとする学習観があること ◆キーワード：認知主義

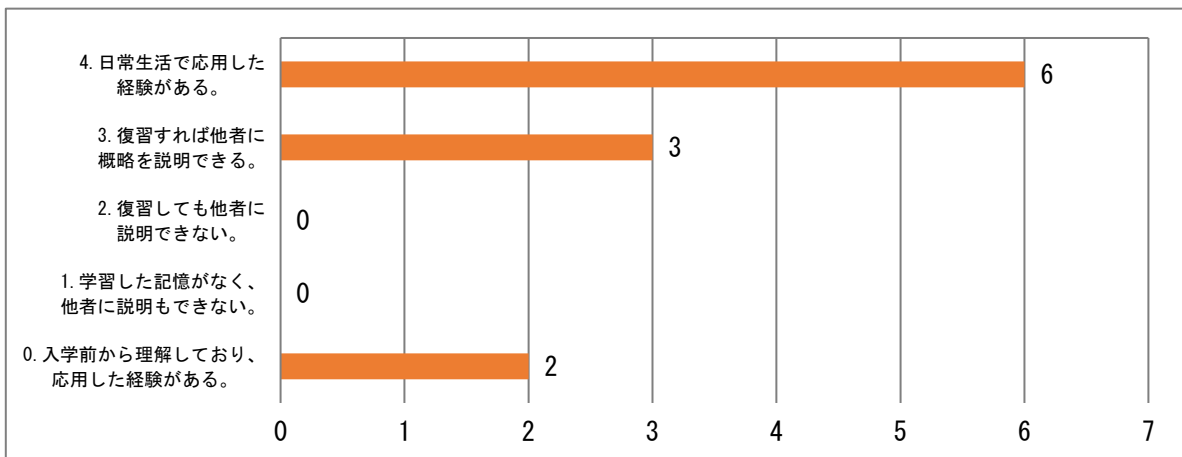


6) 心理学的な支援・健康に関する知識・視点について

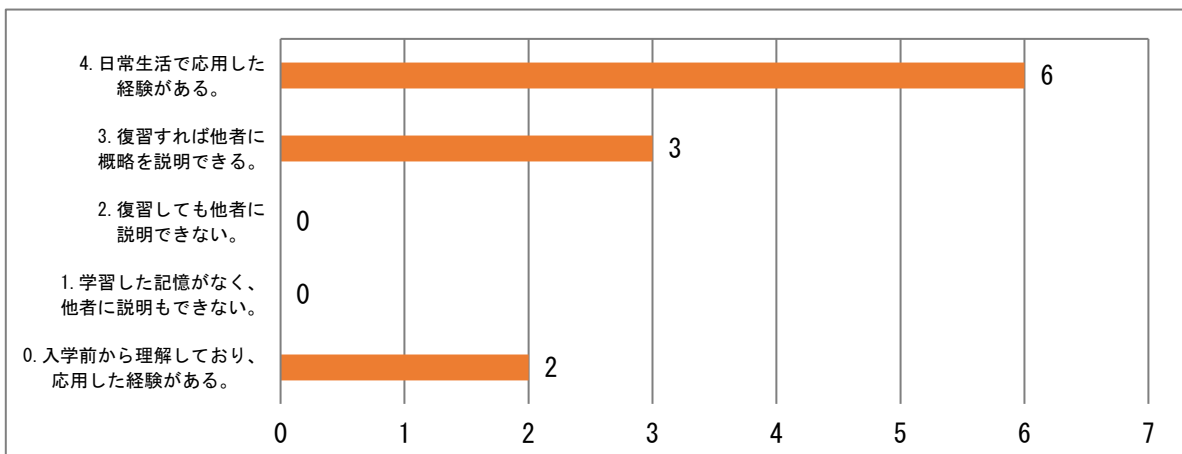
- ① 人を支援する際に、その人や周囲の状態を知る「アセスメント」が大切で、心理検査だけではなく面接・観察など多側面からの理解が必要なこと ◆キーワード：観察法、面接法、投影法、作業検査法、質問紙検査法



- ② クライアント自身の成長に力をおく支援者がとるべき態度として、「共感的理解」「無条件肯定的配慮」「治療者自身の自己一致」があげられていること ◆キーワード：ロジャース、カウンセリングマインド



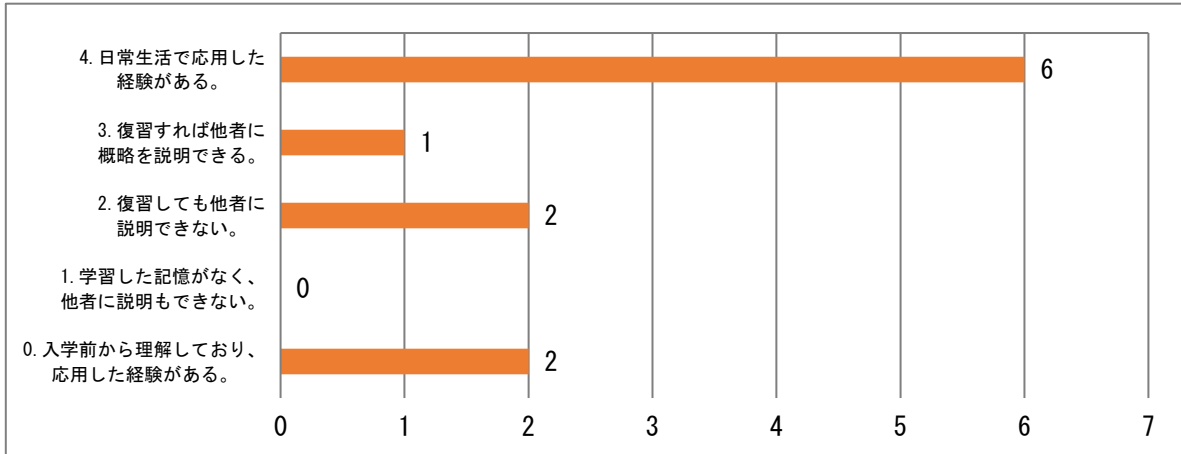
- ③ カウンセリング場面では、クライアントの不安や抵抗、転移や逆転移などの気持ちを理解し、受容と傾聴などをもちいて信頼関係を構築することが大切であること ◆キーワード：ラポール



7) その他

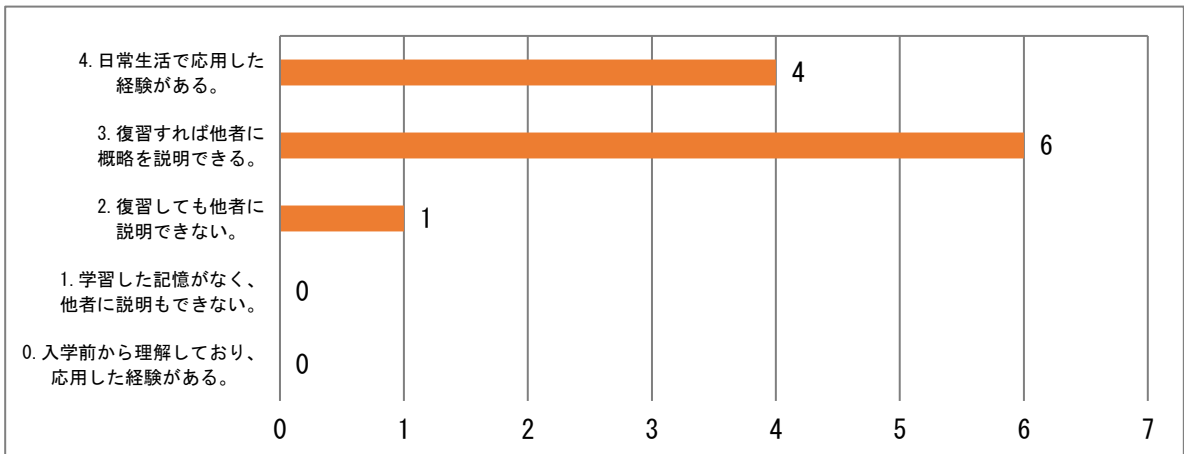
① 「人が予言や期待にそった行動をとるため、予言・期待どおりの事実が起きることがある」こと

◆キーワード：予言の自己成就、ピグマリオン効果



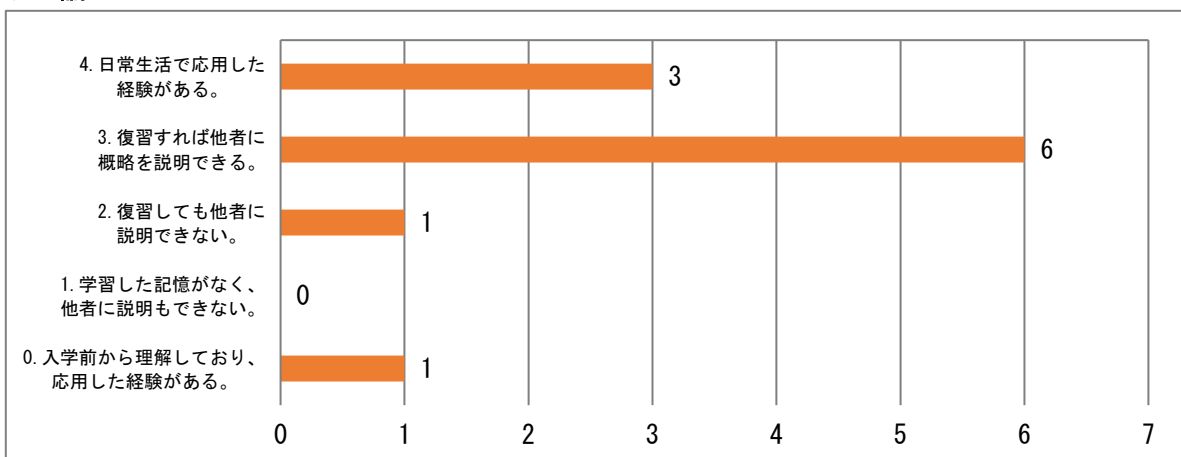
② 一般には「悲しいから泣く」と考えられるが、「泣くから悲しい」など行動が感情を形成する場合もあること

◆キーワード：ジェームズ・ランゲ説



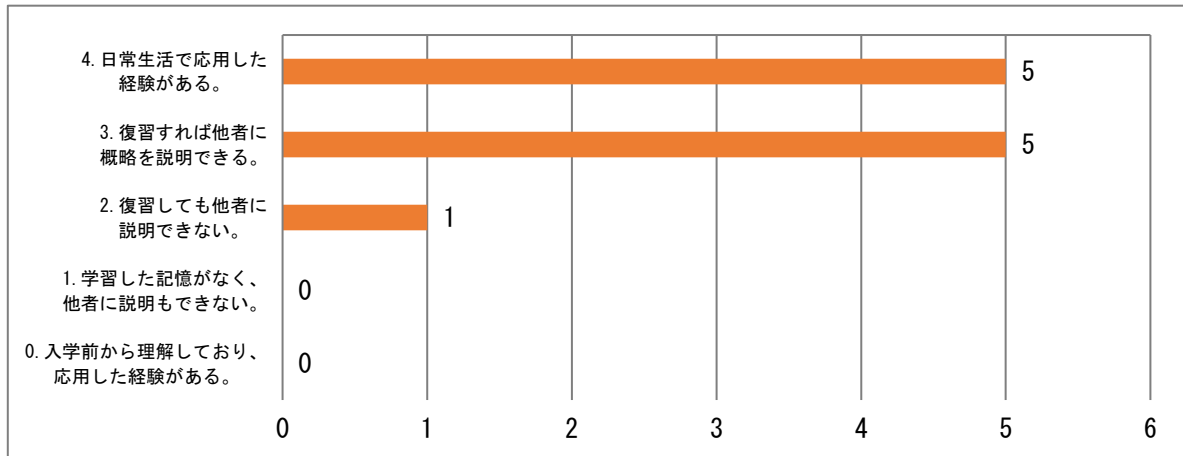
③ 「全体は部分の寄せ集めではない」視点をもてること

◆キーワード：ゲシュタルト、家族システム論

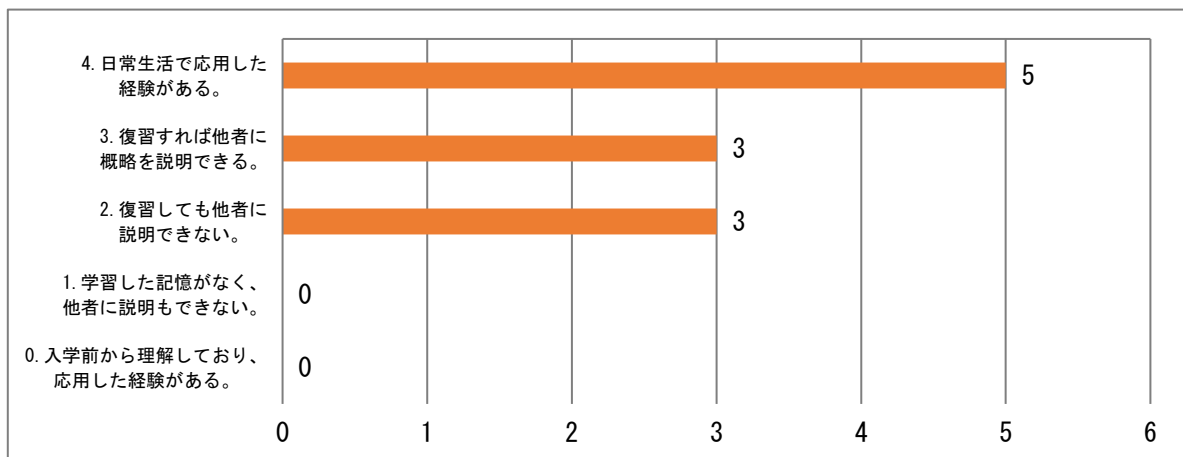


8) 科学的な思考法について

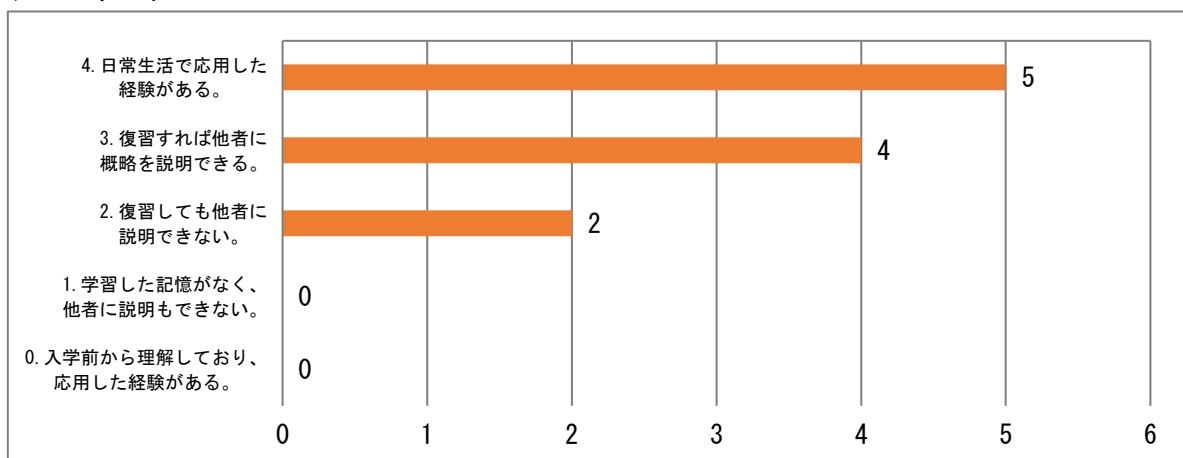
- ① 仮説が成り立つかの正確な結論を出すには、比べる条件以外の要因のコントロール=同じにする=が必要なこと ◆キーワード：実験計画、仮説検証、要因統制



- ② 「グループ間に差がある」などの仮説が支持されるかの検証には、平均値などの大きさの見た目の比較ではなく、統計的な検定処理を行い有意性の確認が必要なこと ◆キーワード：t検定、カイ自乗検定、標準偏差、有意確率(危険率)



- ③ 人間や社会に関する心理学的な説明は、個人差や状況の影響を受けるため、いかなる状況でも全ての人に例外なくあてはまる「わけではない」こと ◆キーワード：個人差、有意確率、母集団、サンプリング

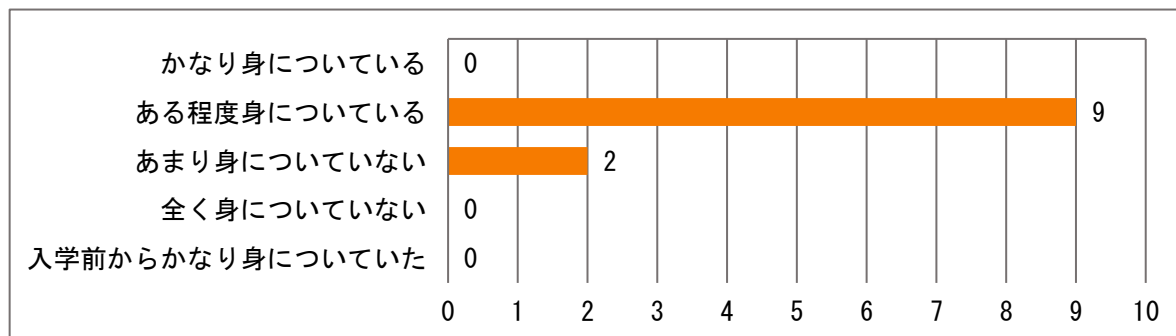


卒業生アンケートより (回答 11 名 / 卒業生 16 名 回収率 68.8%)

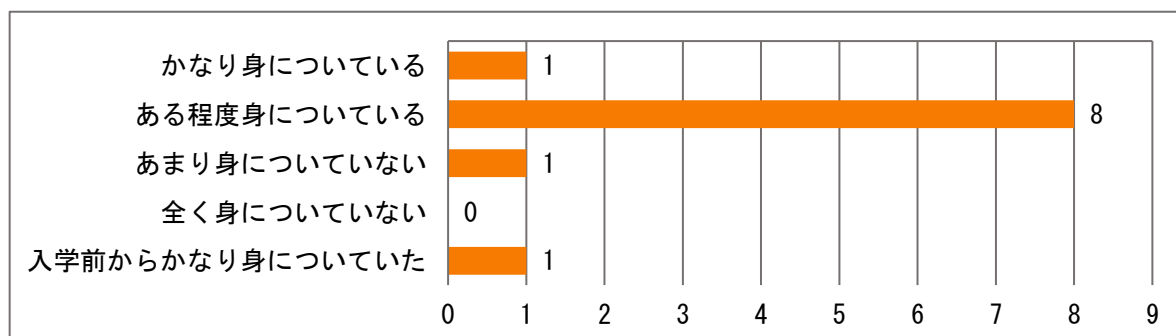
- ・多くの項目で 90%以上の方が「かなり身につけている」「ある程度身につけている」「入学前からかなり身につけていた」の回答であり、本学卒業生として身につけておいてほしいと考えている学士力は身につけていただいている結果となりました。これらの力をよりよい対人支援、福祉社会の実現、そして自身の人生にいかしていただくと願っております。

【質問】 自己評定による「学士力」の達成度として、通信教育部での学びを通して現在あなた自身で身につけていると思うものについてお聞きします。

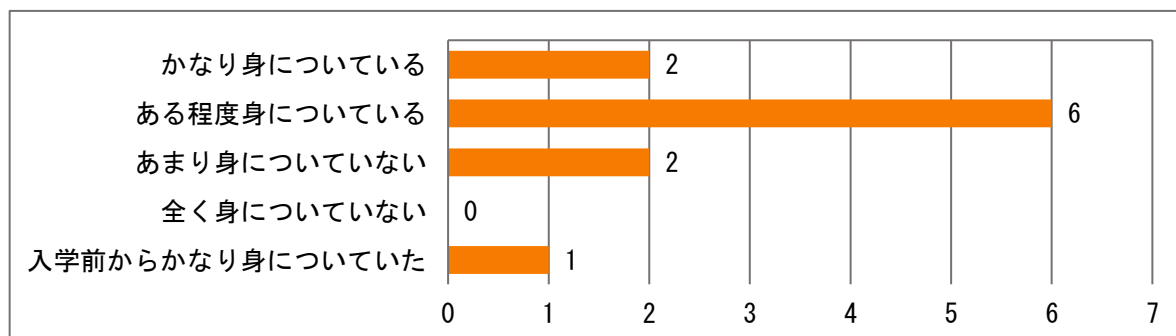
① 人の心と行動を、1) 共通性（一般的法則）、2) 個人差、3) 社会・環境の影響の 3 点から心理学的に説明できる力



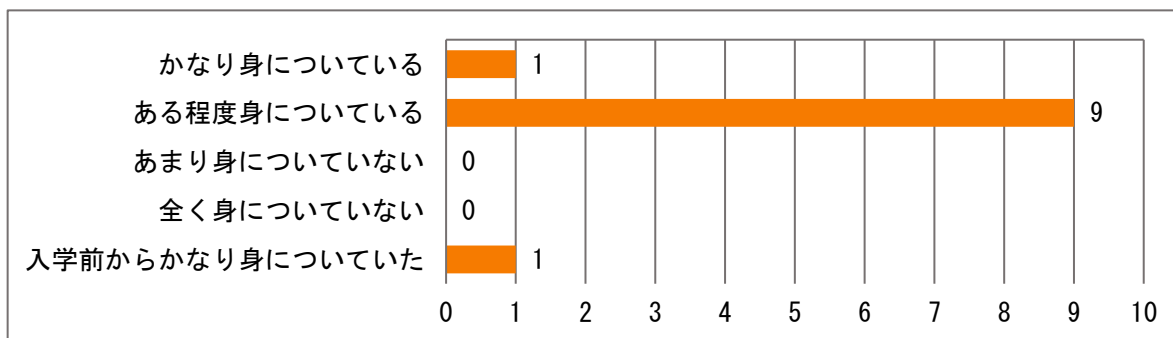
② 根拠から結論を導き、自分の意見を筋道立ててわかりやすく表現する力



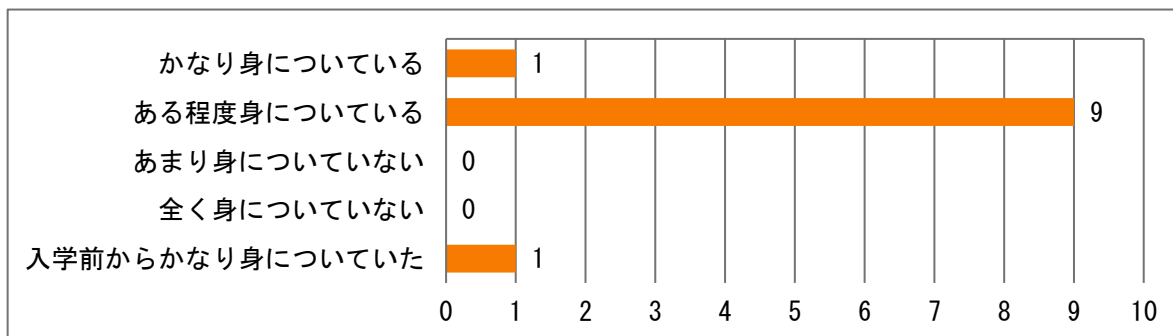
③ 人の心と行動に関する問題に生活場面で気づき、その問題を言語化する力



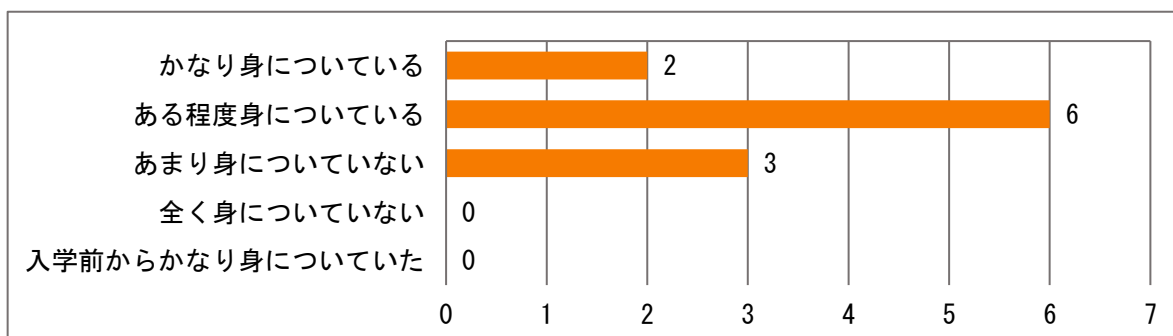
④ 問題の解決のために必要な情報を収集・分析・整理する力



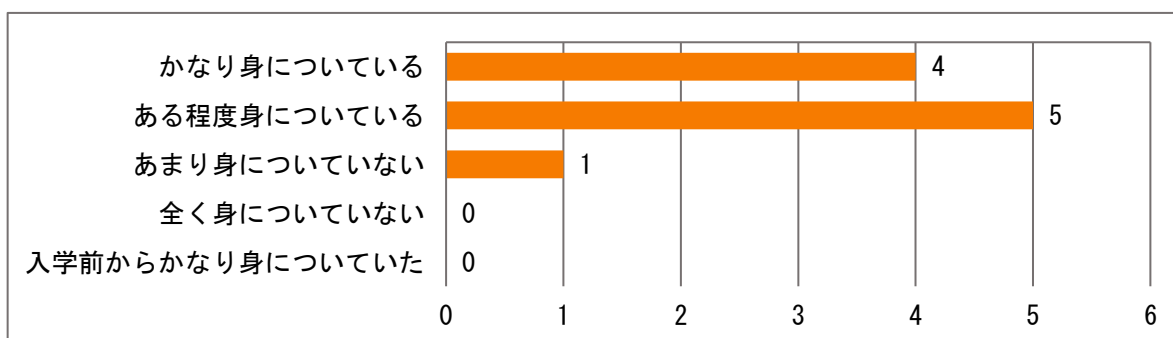
⑤ 問題の解決のために収集した情報を利用し、予防策・解決策を見出す力



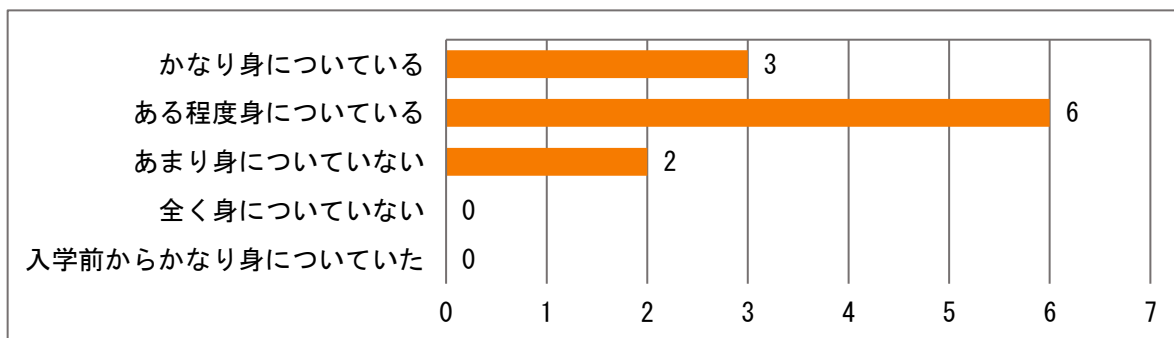
⑥ 問題の発見、解決にあたって、自身と異なる視点や価値観を理解し、多角的に検討する力



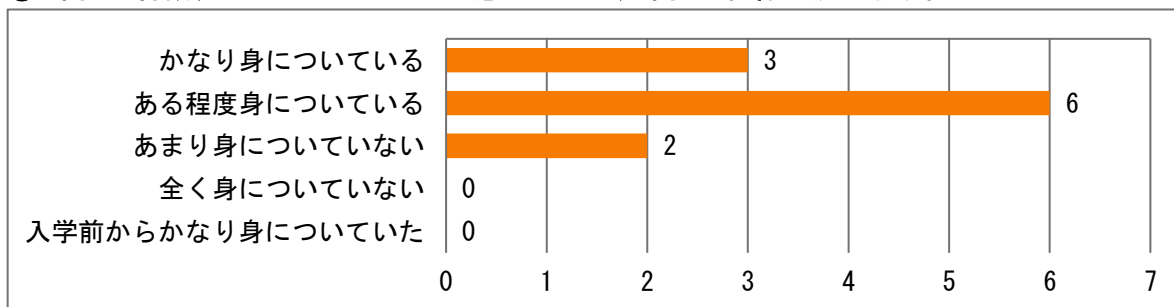
⑦ 他者を共感的に理解し、かつ自分の思いも適切に表現しながらコミュニケーションする力



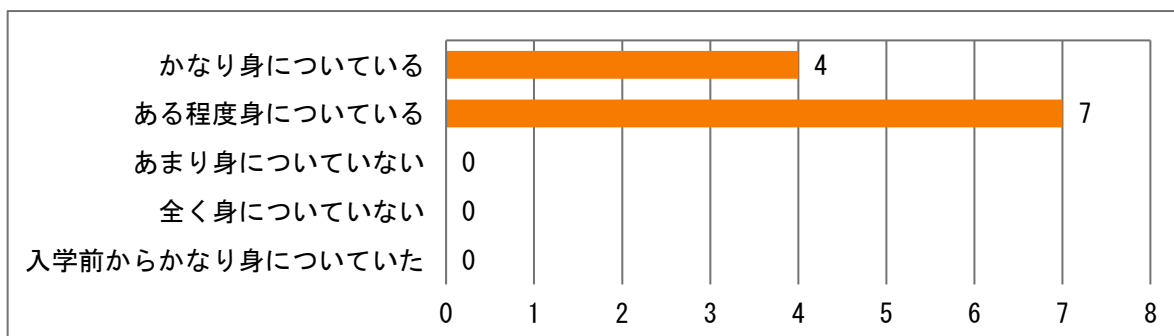
⑧ 自分の気持ち、考え方、行動の特徴に気づきながら、自身をコントロールする力



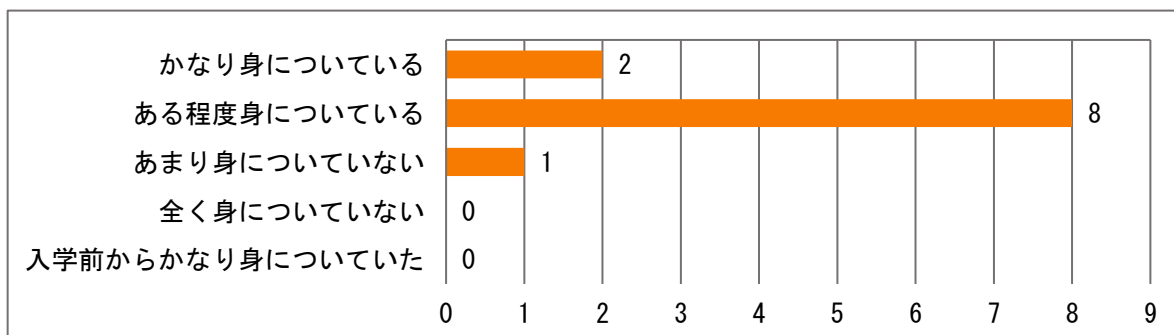
⑨ 集団の特徴、メンバーの心理に配慮しながら、集団の目標達成に取り組む力



⑩ 学んだことをいかして、人びとの幸せや福祉に貢献しようとする姿勢



⑪ 学んだことをいかして、個人や社会に役立つテーマを設定し、当事者や関係者とともに課題の解決に取り組む力



以上です。卒業生の方の今後のますますのご健康ご活躍を祈念しております。